

# アセスメントとは？

## アセッシー側から見た、 アセスメント受審における11の留意点

IPA 独立行政法人 情報処理推進機構  
SEC 技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター  
臼杵 誠

## 1. プロセス改善(SPI)を正しく理解していること

### ◆真のプロセス改善とは

**自分たちの業務プロセスを、自分たちの手で、自分たちのために、日々改善し、積み上げていくこと**

- ・自分たちの今やっている業務プロセスは、必ずしも最適ではないかもしれないが、それなりに合理的なものである。
- ・プロセス改善は職場の全員が合意して実施する活動である。
- ・自分たちの仕事が楽にならない改善は長続きしない。

### ◆自分たちのプロセスをアセスメント・モデルに合わせないこと

**・その土地、風土に合った良い文化がある。いたずらにモデルを持ち込まないこと**

## 2. プロセスアセスメント(SPA)を正しく理解していること

### ◆アセスメントを受けることが目的にならないこと

・アセスメントの目的は、モデルという評価尺度(物差し)により、「強み」・「弱み」を診断し、自分たちの現状を把握し、改善に役立てること。

・アセスメントにより、改善サイクルを回そう

・アセスメントの導入には、「改善目的」と「調達目的」がある。

### ◆アセスメントと監査は違う

・モデルという評価尺度を用いた診断(強み/弱み等の把握)であって、欠点や違反事項の抽出ではない

・インタビューのアプローチが変わってくる

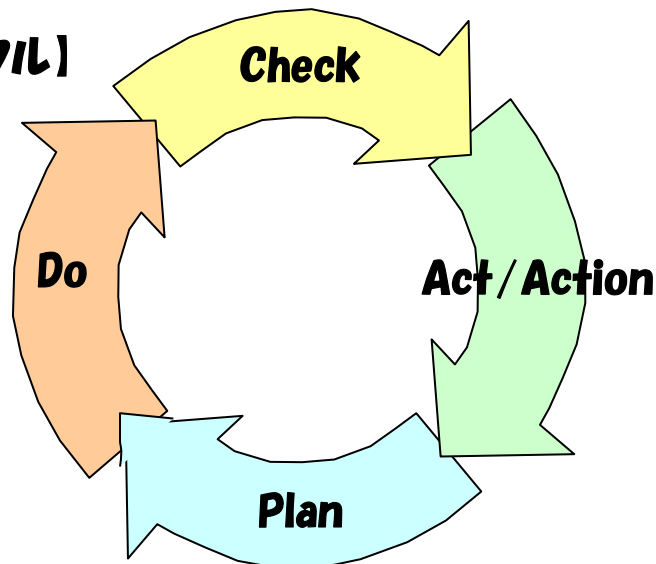
# 改善サイクルをまわす



## ● 「改善サイクルをまわす」 (プロセス改善を進める上で基本となる考え方)

- ・改善サイクルをまわすという考え方は、常に自分たちの仕事の本来の目的に照らして、自分たちの行動がよりよい方向に向かっているのかどうかをチェックしていくこと。
- ・その場限りのやいっばなしや、同じ誤りの繰り返しといった知識や技術の積み重ねのない状態を脱して、着実かつ明瞭で後戻りのないプロセス改善を実現する。

### 【CAPDo(またはPDCA)サイクル】



## **(1) 改善のための導入 (現状を打開し、もっと良くしたい)**

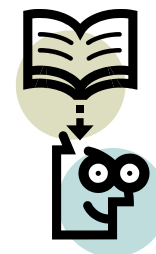
- ・自分たちのプロセス改善のモデルとしたい。
- ・自分たちのプロセス改善結果を客観的に評価したい

## **(2) 調達のための導入 (顧客の調達要件を満足するため)**

- ・外部機関による認証取得によりビジネスにつなげる
- ・顧客によるアセスメント(監査)に対応するため

**動機によってモチベーションの高さと  
会社のリソースの支援状況が違ってくる。**

## 3. アセッサには、ある程度のアセスメントとモデルの知識が必要



## 4. アセスメントが終了した直後が勝負所

**鉄は熱い  
うちに打て！**



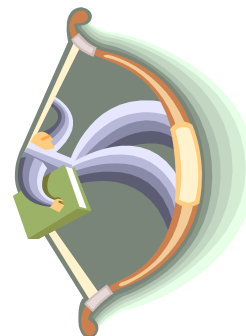
## 5. アセッサの言っていることは全て正しいとは限らない



**6. エビデンスはすぐに出るように、日頃からよく整備しておくこと**



**7. 聞かれたことに素直に答えよう**



**8. 外国人アセッサの場合は、英語で微妙なニュアンスを伝えにくい**



**9. 改善活動の開始前と開始後の変化がわかるようにしよう**

**10. /ウハウの流出に注意**

**11. アセッサにコンサルタントの仕事まで期待しない**